

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	小中学校電子黒板整備事業		担当部署	教育委員会 教育支援室	
総合計画体系			根拠法令 計画など	IT新改革戦略 教育の情報化ビジョン	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成 ▼ 26年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なると			終期
(小項目)	教育行政				
施策	1	教育行政の充実			
基本事業	6	教育支援体制の充実			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 内部管理 市内小中学校						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	国をはじめ各自治体など全国的に教育効果があると報告されている電子黒板、デジタル教科書の導入を進め教育環境の整備を図る。また、電子黒板を活用することにより、「わかる授業」を展開し、授業の理解度の向上を目指す。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	①10月中に小学校16校に各校1台6年生用、中学校5校に各校1台1年生用として電子黒板を導入。デジタル教科書については、中学校は電子黒板と同時に導入したが、小学校については、平成27年度改訂版を導入したため年度末の3月に導入した。 複数学級ある学校では、教室間を移動できる高さに調整したり、特別教室に設置するなど、できる限り活用が進むよう工夫した。 ②小学校では、各学校ごとに電子黒板の研修を計画 ③中学校では、各教科でデジタル教科書の研修を計画 ④小中学校それぞれで授業研究会を計画						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		電子黒板、デジタル教科書整備台数	0	21	18	36	36	台

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	小・中学校に各校1台電子黒板を導入した。デジタル教科書については、小学校は6年生用(平成27年度版)を年度末に、中学校は1年生用(平成24年度版)を導入した。導入初年度であったため、教員の電子黒板やデジタル教科書の基本操作等のスキルを身に付けるため、小学校では各校を中心に、中学校では各教科で研修を行い、個別研修等にも対応した。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 授業での活用時間数(小学校)	0	27.6	138.0	165.6	182.2	時間
	2 授業での活用時間数(中学校)	0	22.2	111.0	133.2	146.5	時間
成果指標 対象にどのような効果があったかを示す指標	電子黒板、デジタル教科書整備台数	0	21	—	—	—	台
	目標達成率(実績/目標)	100.0		—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり			(千円)

財源内訳	平成26年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額	0	0	0	0	15,476	15,476	
		全体予算額						0	
		決算額					15,099	15,099	
		繰越額	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)	総人件費		総事業費			
	0.3	0.0	2,063	17,162					

年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度	
事業費推移	事業費	-	15,099	10,000	25,099	25,099
	うち一般財源	-	15,099	10,000	25,099	25,099
	人件費	-	2,063	2,063	2,063	2,063
	総事業費	-	17,162	12,063	27,162	27,162

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		児童・生徒とも学習意欲が向上しており、学力向上につながっている。さらに教員にとっても授業意欲が向上しており、授業改善にもつながっている。
	効率性	B:概ね効率的だった		デジタル教科書を効率的に活用することで、児童生徒の興味や関心を引き、授業の質が高まった。
②成果に対する評価	指標名	電子黒板、デジタル教科書整備台数		計画どおり小学校6年生用、中学校1年生用として各校1台 合計21台整備した。
	目標	21	台	
	実績	21	台	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		各校1台の導入であったため、複数学級ある学校では電子黒板を移動して活用したり、特別教室に設置し、児童生徒が移動して活用するなど、工夫して活用を進めた。電子黒板を活用した授業では、児童・生徒の学習意欲が非常に高く、学力向上に結び付くと考えられる。平成27年度では、小学校では6年生、中学校では、1年生全普通教室への導入が進み、非常に効果的な授業展開を行うことができている。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	小学校の電子黒板を制御するためのコンピュータは、今年度6年目になり老朽化が進んでいる。高性能な電子黒板、最新のデジタル教科書を導入してもコンピュータの動作が追いつかず、授業展開に支障をきたすこともある。そのため、これらのコンピュータの更新が必要である。 また、今年度、小学校6年生、中学校1年生に追加整備を進め全普通教室導入が完了するが、他学年からの要望も強く、早期の導入拡充が課題となっている。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	平成26年度に続き、小学校では、電子黒板、書画カメラを6年生複数学級ある6校に、中学校では、電子黒板、書画カメラ、ノートパソコンを市内全校で12セット追加整備する。電子黒板に関する研修を重点的、継続的に行っている。			
	H28年度	平成27年度の成果を検証し、小学校では5年生へ、中学校では2年生への新規導入を進める。			